

2021年10月19日(火)

老球の細道636号

逆転されないコーチのベンチワーク

会津バスケットボール協会 室井 富仁

ここ2週間、ミニ、中学校、Bリーグのゲームを観戦する機会に恵まれた。その中で、前半リードしながら後半に逆転されるゲーム、同じ相手と1回目楽勝しながら、2回目は簡単に負けてしまうゲームがあった。私も現役のコーチ時代何度も経験していて、その悔しさは今でも忘れない。勝てるゲームを落としてしまうことはコーチにとって屈辱である。眠れない日を数日送らなければならない洗礼が待っている。そしてその洗礼を何度も受けながらコーチは育っていく。

ゲームは生き物である。ゲームの流れは良く変わる。最もよくわかるのがシュートの確率である。前半入っていたのが後半まるで入らなくなる、1試合目は良く決まった3Pが2試合目はまるで決まらなくなる等である。これらの結果に対する原因を早く察知して軌道修正しないと、ゲームは思わぬ方向に進展してしまう。そこでコーチのベンチワークが必要とされる。運、不運、選手の調子などに責任転嫁してはいけない。

今回観戦したゲームの中で前半リードしながら後半に失速して逆転されるケースについていくつかポイントを提示したい。

*リードしたら油断しないでさらにたたみかけ、点差を広げ相手にあきらめさせる。イージーシュートを落としたり、リバウンドを取られたりしていると、相手が息を吹き返し流れが変わる場合がある。クォーターの始まりは、どんなにリードしても0対0でスタート。

*リードしている状態で自チームの得点が止まった。点差をつめられないようにディフェンスをがんばる。相手の得点も抑えて現状維持でまんする。特に、相手に走られてレイアップシュートをさせない、オフェンスリバウンドを取らせないことが重要である。

*速攻が出なくなりセットオフェンスのみになってしまう。自チームのゲームテンポが速いテンポならその土俵に相手を誘い込まなければならない。相手のゆっくりしたテンポにはまると、シュートのみならずすべてが狂ってくる。ディフェンスを激しくして1本でも速攻を出して流れを変えることである。ゲームテンポの意識は非常に大切である。

*ハーフコートオフェンスが単調な1:1アイソレーションのみになり、他のプレイヤーの足が止まってしまう。パスをした選手がカットしてチームの動きのきっかけを作る。ハーフコートオフェンスは「ボールを止めない、動きを止めない、攻撃を止めない、脳を止めない」。これによってシュートミスもオフェンスリバウンド、セカンドシュートにつながる。

*後半に足が止まる。ゲームの勝負は後半にある。後半にチームスタミナを落とさないためにも多くの選手を使えるように準備する。ゲーム中もメンバーチェンジによってスタミナの温存に気を配る。特に接戦時の最後の勝負はエース対決に命運がかかる。

ゲームは最後の最後までわからない。最後に勝った者が真の勝利者である。戦いはこちらの石(強み)で相手の豆腐(弱み)をつぶす。俺流勝負の法則である。老人の呼吸、全集中。